

美々津中学校通信

9月号

R6. 9. 1

発行者校長



美々津中HPへ

代の活躍から感じたこと

七月下旬に開幕したパリオリンピックは八月中旬に二十日間の日程を終え閉幕しました。今回のオリンピックで特に印象に残ったのが、スケートボード・スポーツクライミング・ブレイキン・自転車BMXなどのアーバンスポーツと呼ばれる競技です。その競技者の中心は十代の若者です。中には、10代前半の中学生もいます。スケートボード・ストリート部門では、男女ともに日本が金メダルに輝き、女子パーク部門でも銀メダルに輝くという快挙を成し遂げました。ストリート部門の吉沢恋選手は、十四歳の中学二年生、パーク部門の開心那選手は、十五歳の高校一年生です。まだあどけない表情で幼さも残る二人ですが、競技のポテンシャルは高く、超人とも思えるような技能を披露していました。特に驚いたのは、吉沢恋選手が、5回の試技のうち最後の1回で大逆転となる演技を披露した時です。とても人間業と思えないような技を巧みに披露し、見事に成功させて見せました。わずかに十四歳という年齢でこのようなパフォーマンスができるというのは、想像を超えたものでした。多くのオリンピックアンたちが



プレッシャーに押しつぶされ、涙をのんできたシーンを経験し、涙を流して来た中で、この子たちには、プレッシャーなど微塵も感じる様子もなく、なんと逞しい精神力なのかと感心せざるを得ませんでした。ともすると「最近の若者は、・・・」と揶揄される風潮の中で、日本の若者の強さ、逞しさを改めて見せられた瞬間でした。

一方で、同じスケートボードのパークに出場していた東京オリンピック金メダリストの四十住さくら選手は、予選第2組終了時点で5位となり、残り1組8人の演技次第で決勝8人に残れるか微妙な状況でした。そこでこのインタビュで、「決勝には残りたいけど、これから演技する8人の失敗を祈りたくはない。」と語り、ライバルでもあるがスケートボードの仲間としてリスペクトしているという気持ちで伝わり、感動しました。スケードという競技を通してしっかりと人と人としても高め合っているのだと気付かされました。何でも世界のトップに立とうとしている人たちは、技術を鍛錬すると同時に、心も鍛錬されることでトップを争えるのだと感じました。ぜひこのような姿勢を中学生も学んで欲しいと思います。



牧水かるた大会

八月二十三日(金)、第四十八回日向市牧水かるた大会が開催されました。日向市内の小中学生総勢二百七十七人が参加し、頂点を競い合いました。この牧水かるたは、日向の偉人、若山牧水の歌集約九千首から、高森文夫氏が百首選定し、昭和四十九年に牧水かるたとして完成しました。日向市では、郷土の偉人の歌を一首でも多く後生に伝えていくことこの「牧水かるた大会」を開催し、本年度が第四十八回を迎えることになりました。

本校は、3年生4人(黒木遙希さ、那須心奏さん、黒木優那さん、安藤愛空さん)が団体戦に、1年生2人(黒木萌紗さん、内田帆香さん)が個人戦に出場しました。小学校時から牧水かるたに親しみ、鍛えてきた3年生4人が本大会に臨み、昨年度に引き続き、見事団体戦優勝を果たしてくれました。また、個人戦でも黒木萌紗さんが第3位となり、大健闘してくれました。夏休み残りわずかとなった日に、美々津中にとつて大変喜ばしい、そして誇れる結果を残してくれました。



いのちの大切さを考える集会

七月十九日(金)に宮崎県の教育週間(七月上旬)にも関連し、本校独自の取組として「いのちの大切さを考える集会」を開催しました。この取組は、生徒会が企画し、心ない言葉で人を傷ついたり、トラブルになったりすることを考え、やさしい言葉の大切さを考えるというものです。

今回のテーマは、「苦しい・悲しい・悔しい」と思っている人に言葉をかけようです。生徒たちは、思い思いに考えた言葉をカードに記入し、あらかじめ準備された模造紙いっぱい木の木に貼りま

本校では、前向きで明るくなることばを『明元素』とよび、明元素がふえる毎日しようと呼びかけています。この取組が全校生徒の生活を楽しく、何事にも前向きに取り組めるようになることを祈っています。



球状コンクリーションについて の講演

七月十二日(金)、「球状コンクリーションについて」の講演が行われました。これは、夕刊デイリー新聞社坂本光三郎社長の計らいもあり、延岡・日向の3校の中学校に延岡市出身でもある吉田英一氏(現名古屋大学教授、名古屋大学博物館長)による講演が実現したものです。吉田教授は、コンクリーション(いわゆる化石)についての第一人者で、その研究は世界的にも注目されている人物です。コンクリーションという余り聞き慣れない言語ですが、「化石」といえば中学生でも理解できる内容です。吉田教授は、中学生にもわかる言葉で丁寧に説明をしてくださいました。子どもたちも興味深そうに講演を聴いていました。特に、講演の中で印象深かったのは、化石は、何千年、何万年という歳月をかけてできあがるものという認識をもっていましたが、それは実は間違いで、数か月でできあがるということがわかってきたそうです。50分の講演後に、3年生の黒



木優那さんが、「化石は自分で作れるんですか?」という質問に、「はい、特殊な薬品を使えばできます。」という回答でした。

最後に、3年生の黒木侗仁さんが、「コンクリーション(化石)に興味をもったので、これから今日の学習を活かして日常生活送っていききたい。」と感想をお礼を述べてくれました。



夏休み後半の大健闘

夏休み後半、部活動やPTAの行事でたいへん誇れる結果を出してくれました。その結果次の通りです。

【女子ソフトテニス部】

・団体戦 優勝

・個人戦 第一位

(橋本・藤本。ヘア)

第二位 (敷田・柄本。ヘア)

【軟式野球部】

全日本少年春季軟式野球日向地区大会 優勝

【市PTA玉入れ大会】 第三位

美々津中PTA 第三位

女子バレー部健闘

七月二十日(土)、県中学総体女子バレーボール競技が開催されました。本校は、1回戦住吉中(宮崎市)と対戦し、2対1で勝利を収めました。先の県中学秋季大会では、実力を発揮できないまま敗北した経験を見事に活かし、序盤から圧倒する攻撃と粘りの守りで勝利を掴みました。2回戦は、第3シードの上新田中(西都児湯)と対戦しました。実力に勝る上新田中の多彩な攻撃を受け、粘りを見せましたが、0対2で敗北しました。しかし、随所に美々津中らしいプレーが見られ、素晴らしい試合をつくってくれました。これまで2年半、コツコツと努力した成果は十分見られましたし、全校の部活動の模範として頑張ってきたことは、誰もが認める女子バレーボール部です。残念ながら秋から部員が不足となり、本校の名前で出場することはできません。いつの日か、美々津の名前のもと、女子バレーボールが再び輝く日を祈っています。



行事予定

- 9月 2日 (月) 全専委会・中央委会
- 9月 3日 (火) 全校集会・実力テスト (2, 3年→4日)
交通安全指導(→6日)
- 9月 6日 (金) 美々津スタイル学習
- 9月 9日 (月) 学力向上週間 (→12日)
定期テスト前部活停止
メディアコントロール期間
- 9月12日 (木) 第2回定期テスト(→13日)、PTA 運営委員会
- 9月16日 (月) 敬老の日
- 9月17日 (火) 保育実習 (3年)
- 9月18日 (水) 体育大会結団式
- 9月22日 (日) 秋分の日
- 9月23日 (月) 振替休日
- 9月27日 (金) 地区秋季大会推戴式
- 9月28日 (土)・29日 (日)
日向地区秋季体育大会

部活動計画

- ◆軟式野球部
 - 9月14日(土) 練習試合 (対妻中 美々津G)
 - 9月21日(土) 練習試合 (対南中 未定)
 - ★大会等なし
- ◆女子ソフトテニス部
 - 9月 7日(土) 練習 (日向サンパーク)
 - ★大会等なし
- ◆卓球部
 - 9月16日(日) 九州アスティーダ卓球スクール (延岡市民体育館)

日向地区秋季体育大会

9月28日(土)・29日(日)

～美中生の健闘を祈る!～